

越前町議会・令和7年6月定例会一般質問【川口 宜亮議員】

(令和7年6月10日 午後1時37分 開始)

○4番(川口宜亮君) 議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

まず、中学校の部活動の地域移行についてお伺いします。

過去の越前町議会においても、部活動の地域移行についてをテーマに一般質問が行われておりますが、私なりに気になる点を質問させていただきます。

部活動の地域移行とは、これまで中学校の教員が担ってきた部活動の指導を地域のクラブや団体などに担ってもらうことで、地域の活動に位置づけすることを指しています。

具体的には、スポーツ庁と文化庁が令和4年12月に策定したガイドラインに基づき、令和5年度から今年度までの3年間を改革推進期間として、まずは休日の部活動を段階的に地域に移行し、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すというのが国の方針です。

国のガイドラインでは、部活動の地域移行を行う理由として、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が難しい状況にある。また、専門性や意思にかかわらず顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなるとあります。

これまでの学校部活動は、学校教育の一環として、必ずしも教員が担う必要のない業務である部活動を先生方の献身的な勤務の下で成り立ってきましたが、本来休日であるはずの土日に部活動の指導をしていることが長時間勤務の要因であることや、経験のない部活動の指導は教員にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じているのが現状です。

また、少子化に伴い、団体競技のチーム編成が難しくなっており、町教育委員会によると、令和5年度から朝日・越前・織田中学校の軟式野球部が、令和6年度から織田中学校の女子ホッケー部が、一つの中学校でのチーム編成は難しく、合同チームで活動しているとのことでした。

一方で、これまでの学校部活動は、協調性やコミュニケーション能力を養う上で非常に有効で、練習や活動を継続する中で努力する姿勢や責任感、自立心が自然と育まれていきます。スポーツであれば体力や健康の維持に役立ち、文化芸術活動であれば想像力や表現力が伸ばされるなど、それぞれの個性に応じた成長の機会が得られます。

さらに、大会や発表会を通じて目標を達成する喜びや仲間と喜びを分かち合う経験は、生徒にとって貴重な成功体験となり、自己肯定感の向上にもつながります。

このように、中学校の部活動は、教科学習とは異なる側面から生徒の成長を支える大切な教育の一環であったと思います。

そこで、これまでの一般質問に対する町の答弁も踏まえ、越前町における部活動の地域移行の現状等について、2点質問いたします。

1点目は、昨年度からホッケー、軟式野球、ソフトテニスなど一部の部活動において、モデル活動を行っていると聞いておりますが、そこで見えてきた課題、例えば地域の指導者の確保や学校の部活動顧問との連帯など、様々な課題が見えてきたと思いますが、どのような課題があり、また、それらの解決に向けた対応は、どのように考えているかお伺いします。

2点目は、文化活動についてです。

現在、町内全ての中学校に吹奏楽部がありますが、今年度、宮崎中学校以外の中学校の部員数は少なく、越前中学校と織田中学校は今年度より合同化の動きがあると聞いております。

スポーツ活動には越前スポーツクラブなどの受皿がありますが、吹奏楽などの文化活動については受皿となる民間団体が少なく、地域移行が難しいように思われます。また、楽器等の確保や活動場所など、スポーツ活動とは違った課題があるため、最低限、学校が場所を提供し、学校備品である楽器を使用することが必要ではないかと思います。

そこで、町では、文化活動の受皿の構築方法や休日の外部指導者と生徒だけの学校施設及び学校備品の使用について、どのように考えているかお伺いします。

次に、町長の今後のまちづくりビジョンについて質問させていただきます。

本年3月、越前町及び越前町議会議員選挙により高田浩樹町長が当選され、私も町議会議員として一歩を踏み出すことになりました。私が町議会議員として立候補するに至ったきっかけをお話したいと思います。

私は今から30年前、24歳で結婚したタイミングで、旧朝日町の小倉区に移住し、4人の子どもたちに恵まれました。子どもたちは、朝日西保育所、糸生小学校、糸生中学校、3番目、4番目の子どもたちは合併された朝日中学校へ、そして、4人全員が丹生高校に通い、この春に4番目の子どもが高校を卒業しました。

その間、私自身も、糸生小学校や丹生高校のPTA会長、越前町PTA連合会長など、子どもたちがこの地で学ぶためのお手伝い役を務めさせていただき、そして、たくさん子どもたちが頑張っている姿を見せていただきました。いつしか、そんな子どもたちのために、この魅力ある街を残していきたいと思うように

なりました。

しかしながら、令和5年に国立社会保障・人口問題研究所から示された地域別の将来推計人口では、越前町は2020年の2万118人から、2050年には1万1,813人へと減少し、その減少率は41.3%にもなります。参考までに福井市では、2020年の26万2,328人から、2050年には21万3,712人まで減少しますが、その減少率は18.5%であり、越前町の減少度合いがいかに厳しいものであるか、非常につらい推計結果となっています。

こうした現状を踏まえ、何とかこの越前町を盛り上げていきたい。越前町が抱える課題を解決すべく、地域の皆様と一緒に考え、そして、その声、思いを町政に届けるパイプ役になりたいと思い、立候補するに至りました。

そして、町長が3月に就任してから約3か月が経過しました。町内からはもちろんのこと、町外の方々からも、新しい町長になって何が変わっていくのか、何がよくなっていくのかという声をよく聞きます。これらの声というのは、町民の方をはじめとし、高田町長に期待しているということ、そして、越前町政に興味を持たれたということだと感じております。

選挙前、町長は13回のタウンミーティングを開かれ、参加者の声を聞いてられました。そして、3つのまちづくりビジョンを示されておりました。

1、開かれた町政、町民の声が届くまちづくり、2、持続可能な町、暮らしのインフラを守り住み続けたい町、3、未来志向の町、地域の特色が未来へ生きる町、また、当選後の報道機関のインタビューでは、明るくなったと思われる町にしたいとおっしゃっていました。

そこで、改めて町長にお伺いします。

先ほどの中野議員の質問と重複することがありますが、町長も私と同じ、越前町に生まれ育ったわけではありませんが、この越前町で町長を目指すことになったきっかけ、そして、実際に町長に就任されて新たに始められたこと、今後始めていきたいこと、プライベート的になることであれば、お答えいただける範囲で構いませんので、3つのまちづくりビジョンをどのように進めていくかを踏まえ、ご自身のお言葉でお答えいただきたいと思います。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） 教育長、大川。

それでは、川口議員の1点目のご質問にお答えします。

本年1月から3月にかけて、月1回、ホッケー、軟式野球、ソフトテニスの3種目において、地域クラブへの移行をモデル的に実施したところでございます。

この取組を通して、幾つかの課題が明らかになってまいりました。

まず、活動中に事故やトラブルが発生した場合に、クラブ指導者や保護者と迅速かつ確実に連絡を取るためのフローや責任の所在が不明確であった点です。

また、急な予定変更や中止の連絡についても、申込み時に登録したメールを用いて伝達しましたが、メールを見たかどうかの確認やアドレスの誤りによる送信エラーで送れず、電話連絡を行うなどの課題が見られました。

これらに対して、現在、次のような対応策を進めております。

まず、マニュアルを見直し、事故やトラブル発生時の対応を明確にするとともに、携帯アプリを導入し、連絡手段の一本化と情報伝達の効率化を図り、不測の事態にも適切に対応できるようにしてまいります。

さらに、議員ご指摘の地域の指導者の確保や学校の部活動顧問と地域指導者との連携については、当初から懸念していた事項です。

今回のモデル事業では、部活動指導員や希望する教員が地域指導者として指導に当たりました。今後は、総括コーディネーターを中心に、各種スポーツ団体や各種目のOB・OGの協力を得ながら、指導者の確保と育成の仕組みづくりを進めてまいります。また、地域指導者と学校との間で定期的な情報共有の場を設けることや、研修会や交流会を開催し、指導者のスキル向上や、さらなる連携の強化を図ってまいります。

これらの取組により、学校と地域が一体となった持続可能な活動体制を構築し、クラブ活動の質の向上と安全確保に努めてまいります。

次に、文化活動における受皿の構築や、学校施設、学校備品の使用についてお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、本町内の中学校では全てに吹奏楽部が設置されておりますが、少子化の影響などにより部員数の減少が進んでおります。このため、越前中学校と織田中学校では、今年度より合同での活動を行う方向で調整を進めております。

スポーツ活動においては、越前スポーツクラブなど地域による受皿が整いつつありますが、吹奏楽などの文化活動については、現時点では十分な地域の受皿が存在していないのが実情です。そのため、現段階では、学校間の合同部活動を推進して対応していくことが現実的かつ有効な方法と考え、当面は学校部活動の顧問の協力の下、休日も学校施設を利用し、学校備品である楽器を使用することで活動の継続を支援してまいります。

今後も、文化活動に取り組む生徒が安心して活動できるよう、実情に即した支援体制の整備に努めてまいります。

中学校部活動の地域移行については、これまでも児童生徒や保護者へのアンケートを実施するとともに、PTA総会の場において説明を行い、ご意見をいただいております。また、学校情報配信アプリ「Home & School」を通じて、継続的に情報発信にも努めてきたところです。

今後も、こうした取組を継続し、円滑な地域移行が図られるよう丁寧に進めて

まいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） 町長、高田。

それでは、川口議員ご質問の今後のまちづくりビジョンについてお答えいたします。

議員におかれましては、議員になられるまでの30年間の越前町でのご経験、特に子育てやPTA活動を通じて、子どもたちの成長を間近で見守ってこられたお話、大変感銘を受けました。未来を担う子どもたちのために、この越前町をよりよい形で残していきたいという議員のお気持ち、私も全く同じ思いであります。

議員ご指摘のとおり、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計は、私たちにとって大変厳しい現実を突きつけております。しかし、そのような中でも住み続けたいと思える町を、また、越前町の持つ豊かな自然、歴史、伝統や文化など地域の特色を生かし、将来にわたり夢や希望が持てるよう次の世代につなげていきたい、それらを町民の皆様と共につくり上げていきたい、そのような思いが募り、町長を目指すに至りました。これらが町長を目指したきっかけであります。

こういった思いから、町民の声が届き伝わる開かれたまち、暮らしのインフラを守り住み続けたい持続可能なまち、地域の特色が未来へ生きる未来志向のまちの3つのビジョンを掲げております。

就任してからの具体的な取組といたしましては、今回の6月議会の一般会計補正予算に、越前地区から福井市内への通勤・通学者を対象に、朝に1便、直行バス運行の委託料の計上をいたしました。

介護用品支給事業に関して、今年度より補助を増額し、現在、関連品目の拡充ができるよう進めているところです。

また、ふるさと納税の商品開発に関する助成の検討、敬老会のイベントについて、より多くの方が参加したくなるよう、内容の見直しを進めているところであります。

今後始めたいことといたしましては、通学支援の拡充、より届きやすく、より伝わりやすい広報の展開、AIなどの最新技術の活用を通して、住民サービスの向上や業務の効率化を進めていくことも検討しております。

いずれにいたしましても、これらの施策は3つのビジョンと関連した施策であり、一歩ずつ歩みを進めていく所存です。

町政発展のため、誠心誠意努めてまいる所存ですので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 川口宜亮君。

○4番（川口宜亮君） 大川教育長、ご丁寧なお答え、ありがとうございます。

私は野球が大好きな子どもで、中学校では野球部に入りました。私の通ってい

た中学校は生徒数も多く、部活の選択肢も多く、好きな部活に入ることができました。弱いチームでしたが、初めてレギュラー番号のユニフォームをもらって、うれしかったこと、親に買ってもらったバットを大事にしたこと、部活の帰り道にみんなで買った20円のコロッケがおいしかったこと、本当によき思い出として残っております。

現在は少子化で、生徒数も少なく難しいとは思いますが、子どもたちが好きな部活動、やりたい部活動で頑張っていけるよう、よろしくお願いいたします。

高田町長、今後のまちづくりビジョンについてのお答え、ありがとうございました。

3月の選挙以来、いろんな方から、新町長さんてどんな人、どんな思いと、よく聞かれてきました。挨拶ぐらいしかしたことないので、よく分からないというように答えてきました。皆さんに高田町長の思いを知ってもらいたく、この質問をさせていただきました。

町政トップの思いを役場職員の皆さん、そして議員が理解して、同じ方向を見ていくことが私は大事なことだと思っております。そうなることを祈って、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

(午後2時01分 終了)